

令和7年度 教育研究推進計画

- 1 研究主題 思考力・判断力・表現力を高める指導の在り方
～対話によって学びを深める授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

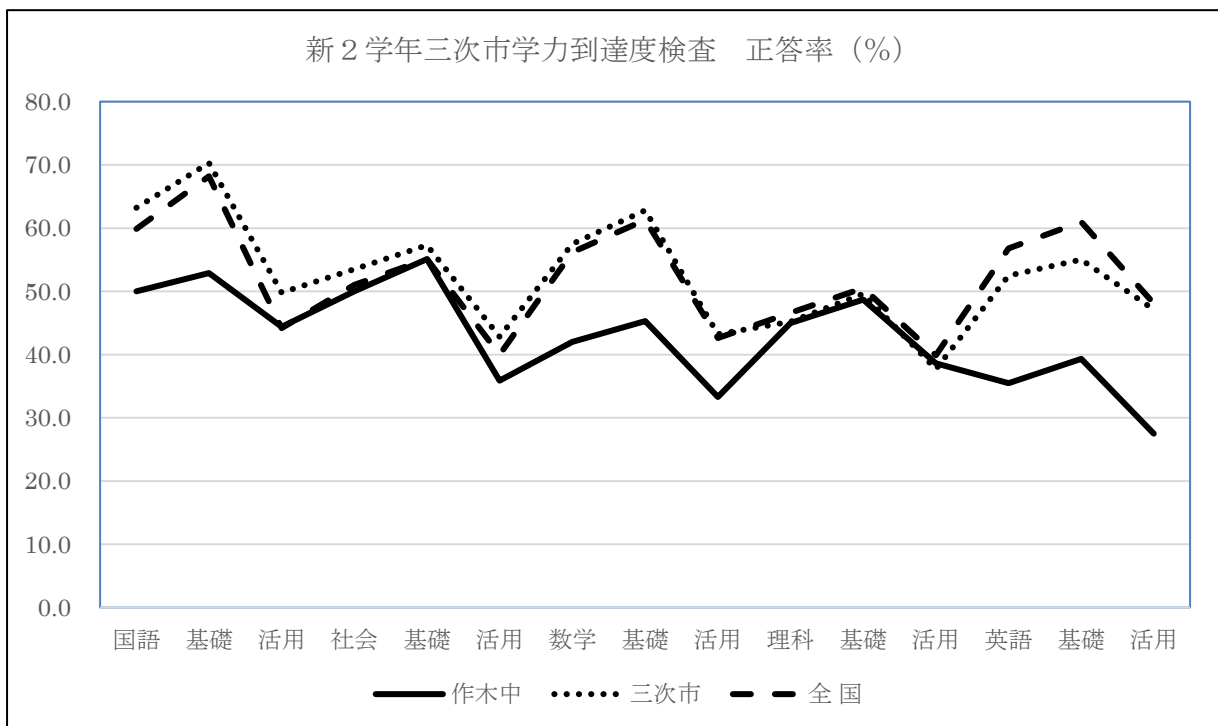
作木町は中国山地の山懷に抱かれ、「中国太郎」の名を持つ江の川や「日本の滝百選」に選ばれている常清滝など豊かな自然に恵まれている。この自然環境を生かして、作木町では稲作を始めとして、梨やリンゴの栽培など農業が盛んである。また、地域の伝統芸能である神楽の継承や地域資源の活用などによる地域の活性化が、地域住民によって積極的に行われている。

本校生徒は、明るく、元気のよい挨拶ができ、学習や部活動にまじめに取り組んでいる生徒が多い。また、ほとんどの生徒が同一の保育所、小学校で育ってきているため、お互いの長所・短所をよく知り、家族的な仲間意識を持っている。

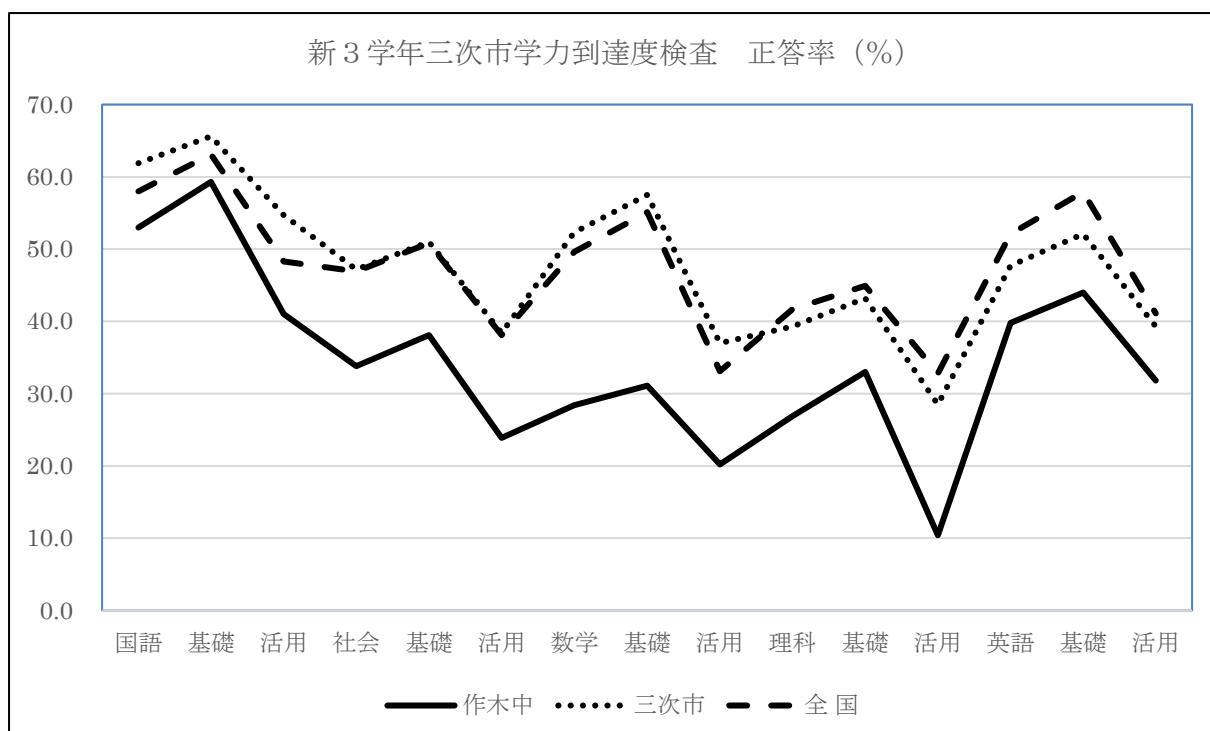
作木中学校区では、「作木中学校区授業モデル」にもとづき、「基礎・基本」の習得と「思考・表現」の充実を図るべく授業研究をすすめてきた。

本校においては、昨年度、小中合同授業研究会を含む10回の授業研修を行い、対話によって学びを深める授業づくりを通して、思考力・判断力・表現力を高める指導の在り方を探ってきた。また、自主学習ノートや学習計画表を持たせ、定期的に学習相談を行い、家庭学習についての指導も行ってきた。

次は、昨年度末（令和7年1月）に実施した三次市学力到達度検査の平均正答率である。



	国語	国語基礎	国語活用	社会	社会基礎	社会活用	数学	数学基礎	数学活用	理科	理科基礎	理科活用	英語	英語基礎	英語活用
作木中	50.0	52.9	44.4	50.0	55.1	35.9	42.0	45.3	33.3	45.0	48.7	38.6	35.5	39.3	27.5
三次市	63.2	70.3	49.8	53.5	57.3	42.8	57.5	62.8	43.2	45.2	49.6	37.7	52.5	55.0	47.1
全国	59.9	68.2	44.2	51.0	55.1	40.0	56.2	61.3	42.6	46.6	50.5	39.9	56.8	61.0	48.1
全国との差	▲9.9	▲15.3	0.2	▲1.0	0.0	▲4.1	▲14.2	▲16.0	▲9.3	▲1.6	▲1.8	▲1.3	▲21.3	▲21.7	▲20.6

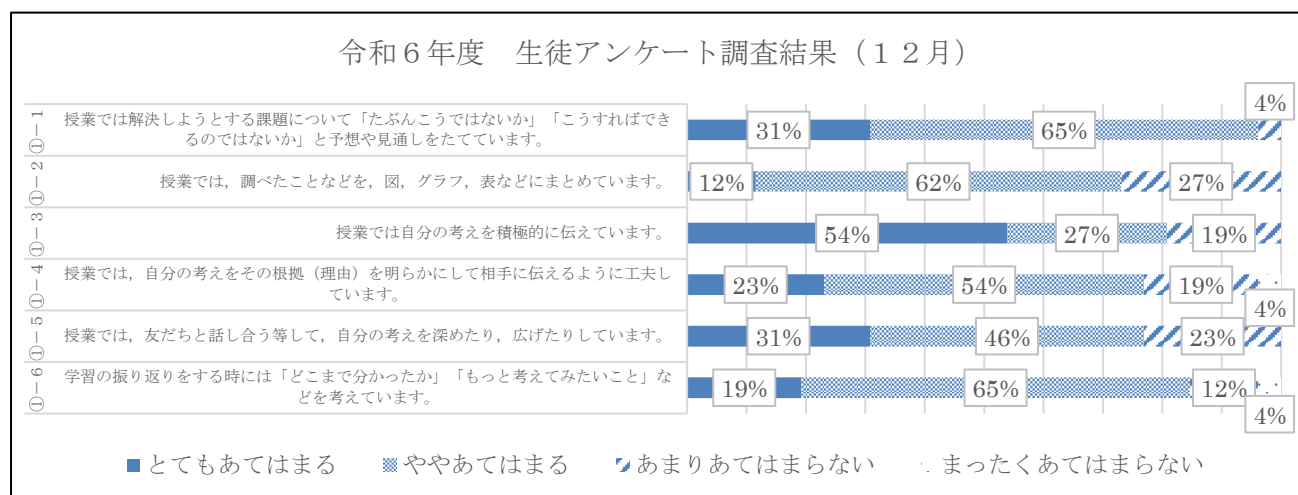


	国語	国語基礎	国語活用	社会	社会基礎	社会活用	数学	数学基礎	数学活用	理科	理科基礎	理科活用	英語	英語基礎	英語活用
作木中	53.0	59.3	41.0	33.8	38.1	23.9	28.4	31.1	20.2	26.9	33.0	10.4	39.8	44.0	31.8
三次市	61.9	65.6	54.7	47.2	51.0	38.4	52.3	57.5	37.0	39.3	43.2	28.5	47.7	52.1	39.3
全国	58.0	63.1	48.3	46.9	50.8	38.1	49.6	55.1	33.1	41.7	44.9	32.8	52.1	57.9	41.1
全国との差	▲5.0	▲3.8	▲7.3	▲13.1	▲12.7	▲14.2	▲21.2	▲24.0	▲12.9	▲14.8	▲11.9	▲22.4	▲12.3	▲13.9	▲9.3

新2学年は、全ての教科で全国平均を下回っている。特に、数学、英語が課題である。社会を除き、どの教科についても基礎的な知識の定着が弱い。しかし、国語の活用問題については、わずかではあるが全国平均を上回っている。数学では、「簡単な1次方程式を解く」問いが全国平均を大きく下回っている。また、英語では、「スピーチを読み、その内容を理解している」の問いの正答率が全国平均を大きく下回っている。

新3学年は、全ての教科で全国平均を下回っている。どの教科においても基礎的な知識の定着が弱い。国語では、「必要な情報を指定字数で書き抜く」問いや、社会では、歴史領域の正答率が全国平均を大きく下回っている。理科では、思考・判断・表現の力にかたいがある。

次は、12月に実施した生徒アンケート調査の結果である。



「課題について、予想や見通しを立てている(①-1)」に肯定的に答えた生徒は96%であり、学習に対して興味、関心、意欲を持ち、予想や見通しを持って取り組んでいることが分かる。しかし、「授業では、友だちと話し合う等して、自分の考えを深めたり、広げたりしている(①-5)」に肯定的に答えた生徒の77%にとどまっている。

このような学力調査、アンケート調査の結果から、基礎的・基本的な学力を身に付けさせ、対話によって学びを深め、しっかり考え判断し、表現できる生徒の育成が必要である。

3 研究仮説

各教科等の授業において、対話によって学びを深める授業づくりを工夫すれば、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

4 具体的な取組

○作木中学校区授業モデルの実践

個人思考→集団思考→個人思考

○「本質的な問い」に基づく単元づくり・授業づくり

ア 単元を貫く問いの設定～単元構想シート作成

イ 思考を深める発問の工夫～理由、根拠を考えさせる発問

ウ 対話を意識した授業展開～対象との対話、他者との対話、自己との対話

○ICTの効果的な活用

5 検証の方法

- ・行動観察
- ・各種学力・アンケート調査
- ・学習記録・ノート
- ・作品・作文
- ・生徒アンケート

6 到達目標（作木中学校学校評価自己評価項目）

ア 生徒アンケートの肯定的評価の割合80%以上。

①自分の考えを積極的に伝えている。

②根拠を明らかにして相手に伝えている。

③授業では、友だちと話し合う等して、自分の考えを深めたり、広げたりしている。

④振り返りは「どこまで分かったか」「もっと考えてみたいこと」などを考えている。

イ 三次市学力到達度検査（1・2年）については全国平均以上の生徒の割合、実力テスト（3年）については県平均以上の生徒の割合50%以上。

ウ 生徒アンケートの肯定的評価の割合60%以上。

①定期試験等、自分で勉強の計画を立てている。

②「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしている。

③分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している。